

注 意 報

長崎県病害虫防除所長

令和5年度病害虫発生予察 注意報第4号

茶 チャノコカクモンハマキ、チャノホソガ

1. 発生地域（対象地域） 県内全域
2. 発生程度 多
3. 注意報発令の根拠

(1) チャノコカクモンハマキは8月前期の巡回調査（12筆）の結果、1㎡あたり巻葉数は1.8枚（平年 0.3枚）、発生圃場率は66.7%（平年 10.3%）であった（図1、2）。また、フェロモントラップ（東彼杵町）による誘殺量において、直近の発生ピークの誘殺量が平年より多い（図3）。

(2) チャノホソガは8月前期の巡回調査（12筆）の結果、1㎡あたり巻葉数は0.5枚（平年 0.1枚）、発生圃場率は25.0%（平年 5.7%）であった（図4、5）。フェロモントラップ（東彼杵町）による誘殺量において、直近のピークの誘殺量が平年より多い（図6）。

(3) 気象予報（福岡管区气象台、令和5年8月17日発表）によると、向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

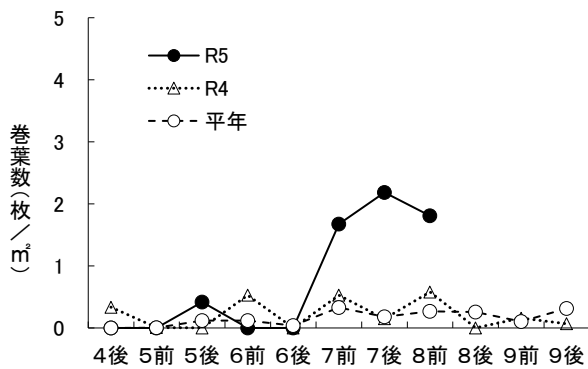


図1 チャノコカクモンハマキ・巻葉数の推移 (月・期)

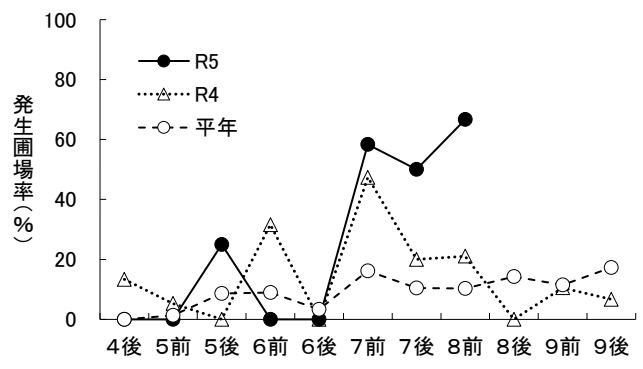


図2 チャノコカクモンハマキ・発生圃場率の推移 (月・期)

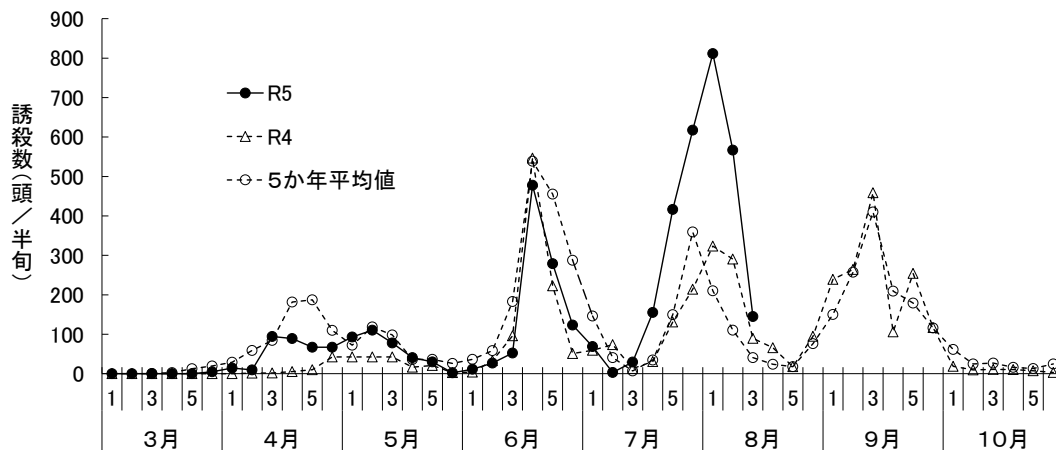


図3 チャノコカクモンハマキの誘殺状況(東彼杵町:フェロモントラップ)
※茶業研究室調べ

(月・半旬)

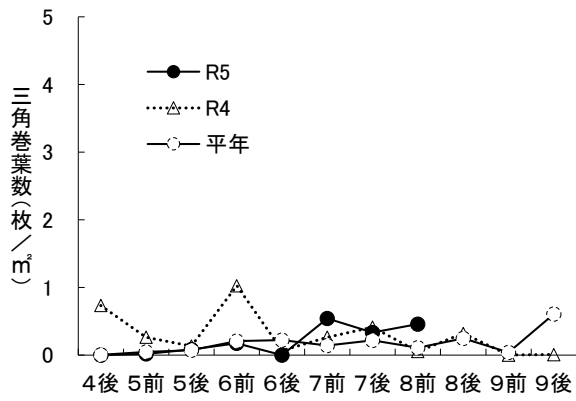


図4 チャノホソガ・三角巻葉数の推移 (月・期)

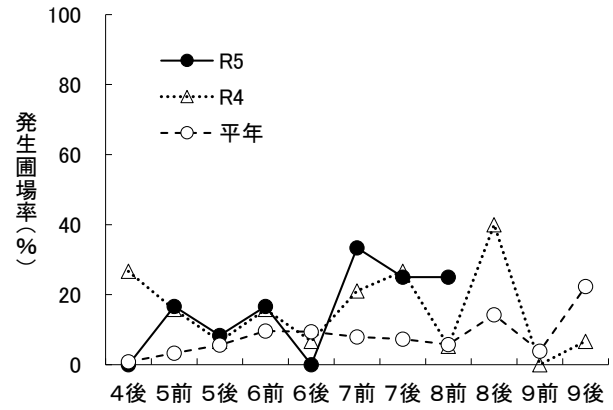


図5 チャノホソガ・発生圃場率の推移 (月・期)

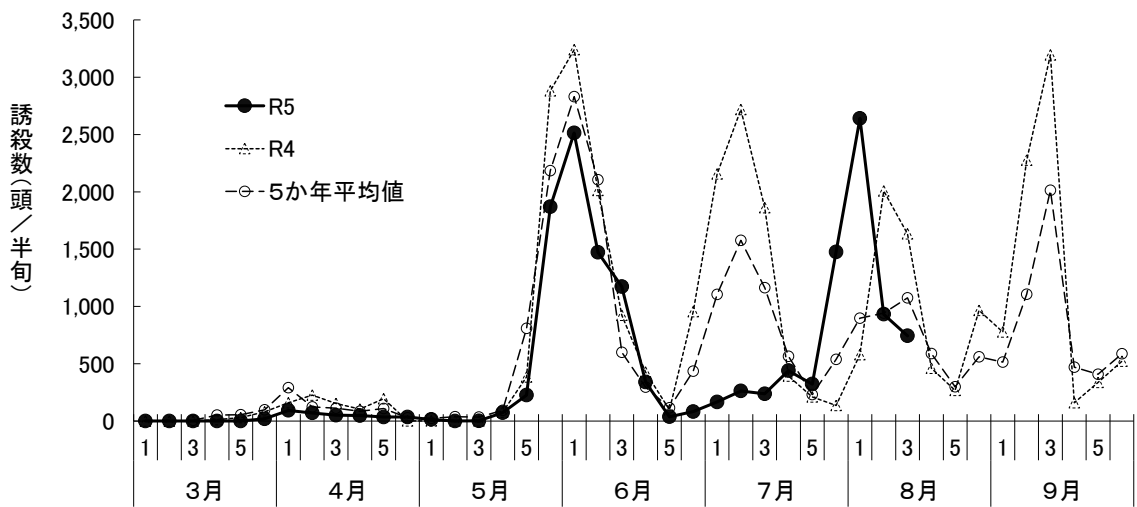


図6 チャノホソガの誘殺状況(東彼杵町:フェロモントラップ) (月・半月)
※茶業研究室調べ

4. 防除対策

- (1) 秋芽生育期の加害は被害が大きいのので防除に努める。
- (2) 防除適期の目安は、脱皮阻害剤 (I G R 剤) は発蛾最盛期のころ、その他の薬剤は発蛾最盛期の約7～10日後である。
- (3) 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統 (令和5年長崎県病害虫防除基準P428～429の「作用機構による分類 (I R A C)」参照) の薬剤は連用しない。

○6月から8月までの3か月間を「農薬危害防止運動月間」と定め、農薬事故を防止する運動を実施しています。

○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室

(長崎県病害虫防除所) ホームページ」アドレス：<http://www.jpnpn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室

(長崎県病害虫防除所) T E L : 0957-26-0027

